



yamagata akita aomori iwate miyagi

みどりの東北

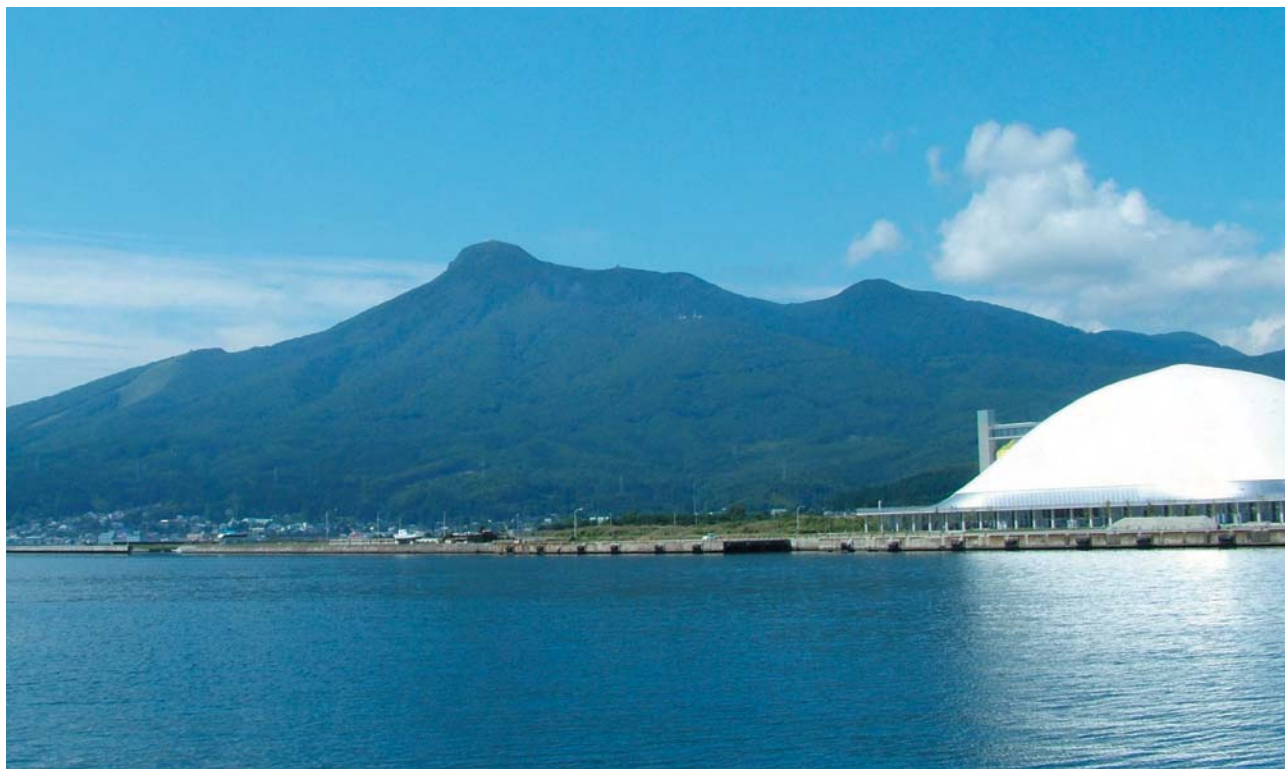
MIDORI no TOHOKU

平成20年9月

No.54

発行／東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16
TEL.018(836)2191

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>



釜臥山（標高879m）

釜臥山（かまふせやま・かまぶせやま）は、青森県下北半島の最高峰で、半島中央部の恐山山地森林生態系保護地域内にあります。

頂上付近にある釜臥山展望台からの眺めは絶景で、むつ市田名部から大湊にかけての市街地と陸奥湾、北側は風間浦村や尻屋崎及び太平洋を臨むことができます。

写真はむつ市大平岸壁から撮影、写真右の白い建物は克雪ドーム（写真提供：下北署）



釜臥山展望台からむつ市方面を臨む

トピック

特集

「間伐のトータルコスト縮減に向けた取組」
～平成20年度低コスト作業システムの普及・推進活動～
販売課

美しい森林づくり

「大鱈方式で効率的な間伐の推進」
青森県大鱈町林業育成会

我が署の隠れた名所

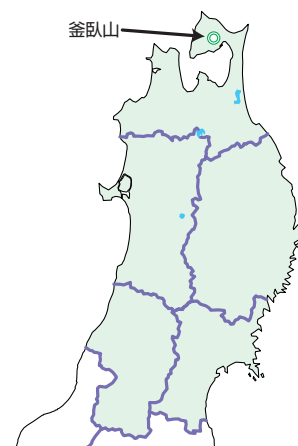
秋田森林管理署「寝仏様」



環境に優しい大豆油インキを使用しています。



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。





150名を超える関係者が参加した昨年度の局検討会

東北森林管理局の「間伐のトータルコスト縮減の取組」については、①収穫調査の簡素化、②列状間伐の推進、③間伐箇所の特化、④低コスト路網の整備、⑤高性能林業機械の普及を図ることを目的として平成十七年度から局主催の現地検討会等を開催し、その普及・推進に取り組んできたところ

です。その結果、収穫調査の簡素化等についてはほぼ定着しつつあり、また、高性能林業機械を軸とする低コスト作業システムの普及についても急速に進み、低コスト作業路作設に意欲的に取り組む事業体も増えております。

作業システムの特性を考慮した低コスト作業システムの構築とこれに対応する技術者の養成を行い、更なる普及・拡大を図るため、これまで行ってきた局主催の現地検討会に代わり、各署が開催する現地検討会等と連携して県単位で開催することになりました。開催に協力をいただいている署等に厚く御礼を申し上げます。

この県単位の現地検討会等の先頭を切って、宮城北部・南部流域森林・林業活性化センターと仙台署の主催で八月二十一、二十二日の二日間、仙台署管内の国有林等

特集コーナー

間伐のトータルコスト縮減に向けた取組

～平成二十年度低コスト作業システムの普及・推進活動～

販売課

を会場として「列状間伐技術交流会」が開催されています。

この交流会は列状間伐技術の交流・普及拡大を目的としています。今年度は高性能林業機械で作業を行うための作業路の作設や低コスト作業路作設も含めた作業システム全般にわたって講義・解説が行われ、民有林関係者も多数参加する意義ある交流会となりました。

また、アクションプログラムに基づく間伐のトータルコスト縮減に関する現地検討会等については、今年度十三署で計画されていますが、去る七月二十四日由利



県単位開催のトップを切って仙台市で開催された交流会の様子



地元新聞社でも大きく報道された由利署での現地検討会

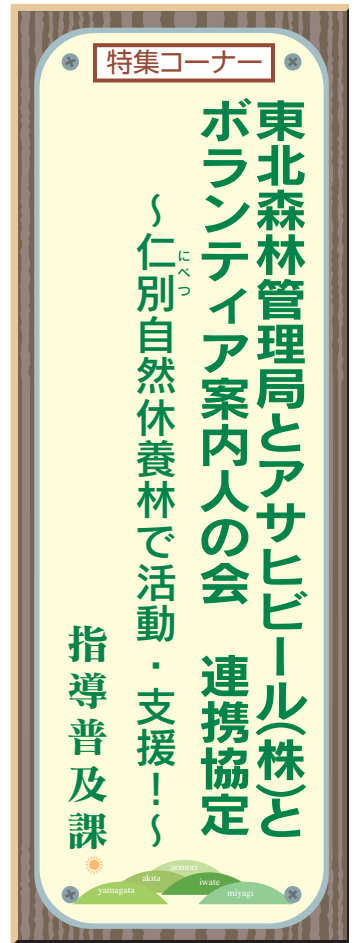
署において、マスコミを含む五十名の参加を得て「低コスト木材生産技術現地検討会」が開催され、低コスト作業路の作設、列状間伐の実行方法を中心にした低コスト作業システムの講義・実演等が地方紙に大きく取り上げられました。

今後も県及び署単位の現地検討会が開催される計画になっていきますので、民有林・国有林が連携して高効率作業システムの普及に取り組むとともに、国有林野は先導的役割を果たして行くことが必要でありますので、関係署のご協力をよろしくお願いいたします。

東北森林管理局とアサヒビール(株)と ボランティア案内人の会 連携協定

〜 仁別自然休養林で活動・支援!〜

指導普及課



「仁別自然休養林」は、秋田市のシンボル太平山(たいへいざん)の麓にあり、市街地から車で約五十分と比較的近いところにあることから、森林浴、自然観察など市民の皆さんに親しまれています。特に、周辺に広がる日本三大美林の「天然秋田杉」は、樹齢二百年〜三百年と言われ、中でも「めおと杉」(胴周り十二m、樹高は男木三十七m、女木三十六m)は「森の巨人たち百選」に選定され、見学者を驚かせています。

また、「仁別森林博物館」は、昭和三十九年の開館以来、初のリニューアルを行い今年五月「森林・林業フィールドミ



博物館周辺の天然秋田スギ林

ュージアム」としてオープンし、多くの市民で賑わいを見せています。(八月末現在で三千人の入場者。昨年は、年間で千百人)

今回、アサヒビール(株)が林野庁で定めている「レクリエーションの森サポーター制度」を利用した森林保全活動を今年度全国六箇所の自然休養林で実施するとし、その一つに当局管内の仁別自然休養林が選ばれました。

一方、博物館内と周辺の森林散策の案内活動をボランティアで行っていたら、今年七月に「仁別森林博物館ボランティア案内人会」を発足していただき、現在秋田市在住の十七名の方々に活動していただいています。

こうした三者の活動を連携して実施するため、①当局は自然休養林等の管理をはじめ、案内人会と協力し、仁別森林博物館及び周辺フィールドにおける体験型森林環境教育や森林保全活動など様々な活動を担当し、②仁別博物館ボラ

ンティア案内人会は、博物館及び周辺森林での案内活動や体験型森林環境教育等様々な活動を企画・実施し、③アサヒビール(株)秋田支店は、今後五年間、社員等による森林整備活動等を実施するとともに、仁別森林博物館ボランティア活動に対する資金的な支援及び初年度における緊急用飲料水の提供を行うこととし、三者による仁別自然休養林での活動協定が八月二十七日当局で調印されました。調印式には、東北森林管理局



調印式で固い握手 (写真中央が局長)

長、アサヒビール株式会社秋田支店長、ボランティア案内人会会長の三者が揃い、仁別の森を全国に発信することを確認し、堅い握手をしました。

今後は、関係者が協力してアイデアを出し合い、多くの市民の皆様や子供達が森林で遊び楽しみ、その中で森林について関心を持っていたり、様々な取組が期待されています。

岩手・宮城内陸地震

九月より

「宮城山地対策室」の設置など

本格復旧に向け体制強化

六月十四日に発生した岩手・宮城内陸地震について、早期の災害復旧に向けた取組(七月号No.52既報)を行っているところでありますが、今後の復旧対策事業の円滑な実施のため、九月一日より宮城北部森林管理署に「宮城山地災害復旧対策室」を設置、復旧対策現場に近い栗原市一迫総合支所内に事務室を開設することとなりました。

事務室には対策室長ほか、職員六名を配置、主に山地災害復旧対策の実行と宮城県内関係者との連絡調整を行って参ります。

また、岩手南部森林管理署・宮城北部森林管理署にも治山・林道技術者を増員し、復旧対策をすすめていきます。

なお、対策室の詳細及び山地災害の復旧状況については、次号十月号No.55号でお知らせします。

着任挨拶

職員一丸となった
震災復興を目指して

東北森林管理局長

山崎 信介

このたび、七月十八日付で東北森林管理局長を拝命致しました山崎でございます。

前職は独立行政法人勤労者退職金共済機構において、林業を営む中小企業で働かれています。皆様のためにつくられた退職金制度の運営に携わっております。その前は、十七年の九月末まで中部森林管理局の名古屋事務所長を仰せつかっておりまして、国有林勤務は約三年弱ぶりということになります。

もちろん、名古屋事務所管内とは気候風土が異なり、当然ながら森林資源の状況なども異なる東北森林管理局で、新参者として職員の皆様や関係者の皆様とご一緒に仕事をさせていただくことになりました。したがって、私自身、まず

もって初心に帰る気持ちで何事も当たるとともに、持前の好奇心を発揮することをお許しいただいて、皆様からのあらゆる情報を最大限かつ早急に吸収して職務に励んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

東北森林管理局は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県の五県にまたがる百六十五万ヘクタールの国有林を管理しております。これらの森林が担っている、地球温暖化の防止をはじめ、国土の保全や水資源のかん養など、いわゆる多面的な機能を最大限に発揮させていくため、現在進行中の管理局の重点取組事項を中心とする各般の事業を、計画に沿って着実に実施していくことが大変重要であると考えております。

特に、低コスト作業路網の作設、列状での伐採木の選木、高性能林業機械の活用、三つの手段を組み合わせた効率的な間伐作業を推進していくことが重要であり、個別の作業内容については今後必要に応じて修正を加えていくことを前提に、対象林分の拡大を図っていくことが喫緊の課題であろうと考えています。また、間伐の実行のみではなく、伐採木の搬出およびその利用に関連する作業などについても、更なるコスト削減の余地がないか、あるとすればどうすれば実現できるかということについても、直接事業に携わっておられる職員の皆様の新たな視点に立った創意工夫と積極的な発案に大いに期待をさせていただきますと考えています。

私の発令の前でありましたが、六月十四日に管内の岩手県内陸南部を震源とする大規模な地震が発生しました。この岩手・宮城内陸地震に被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、不幸にして尊いお命をなくされた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。私も森林管理局といたしましては、被災地の復旧・復興に向けた対策を着実に進めていくことが、当然のことながら最重要課題であると考えております。

一方、岩手南部署や宮城北部署

をはじめ森林管理局の職員の皆様、また全国から応援に駆けつけていただいた皆様には、地震発生以来、緊急対策等への取り組みに昼夜を問わない対応をいただき、大変ご苦勞様ございました。今後は、恒久的な対策を含めた災害復旧事業が本格的に始まることとなりますが、引き続き東北森林管理局は当然のことながら林野庁を挙げての対応を継続することになります。被災された皆様に安全で安心な生活を一日も早く取り戻していただくという、私どもの究極の目標の達成にむけて職員一丸となつて、それぞれの持ち場において取り組んでまいりたいと考えておりますので、関係者の皆様の引き続きのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

最後になつて個人的なことで恐縮ですが、私にとつて東北森林管理局での勤務は二度目になります。新規採用で役人生活を始めた時以来です。長いブランクはありましたが、東北のすばらしさは少なからず承知しているつもりです。今回新たに経験することになるであろう東北のすばらしさも含めて、ぜひとも全国に発信していきたいと考えています。ご賛同いただける皆様のご協力をお願いいたします。着任の挨拶とさせていただきます。

離任挨拶



「お世話になりました」

前局長

河野 元信

このたび、東北森林管理局長を最後に三十年余にわたる公務員生活を終えることになりました。

一昨年の八月に青森事務所、昨年の九月に東北森林管理局にお世話になりましたが、皆様のご支援ご協力を頂きながら、何とか職責を果たすことができましたのではないかと思います。心より感謝と御礼を申し上げます。

ただ、六月十四日に発生しました岩手・宮城内陸地震の復旧・復興をみられずに東北を離れることが非常に残念です。発生以来、岩手南部署、宮城北部署の職員の方々の迅速な災害概況の把握と昼夜を問わない緊急対策、復旧対策への取組には頭の下がる思いです。

また、局、管内各署はもとより、林野庁本庁、九州局、近畿中国局、中部局、関東局からの素早い応援体制をみたとき、まさに国有林の底力を見た思いでした。応援の皆様にご感謝申し上げます。

この災害は、「今後の国有林のあり方を左右する重大なもの」と認識しています。対応如何によっては、「国有林を林野庁に任せておいて大丈夫か？」ということになりかねない。幸い皆さんの懸命な努力により、迅速な初動体制と災害復旧方針の決定、これらも含めた地元住民の方々への情報公開等、国有林の危機管理能力が高く評価され、感謝を頂いております。これから恒久対策等復旧活動が本格化しますが、東北局の本当の力

を世に知らしめる絶好の機会だと思えます。

久々に国有林の現場に勤務して痛切に感じたことがあります。それは「国有林」という言葉が死語になりつつあるのではないかといいことです。私が入庁した頃の営林局、営林署、担当区等の事業量は多く、地域経済に与える影響も非常に大きく、地域の方々も国有林のことをよくご存じでした。しかし、社会・経済・環境等が大きく変化する中で、地域の方々でも国有林のことを知らない人が多くなりました。加えて、国有林組織



山崎新局長へとバトンタッチ

の名称変更もありました。森林管理局、森林管理署、森林事務所がどのような仕事をしているのか、はたまた国有林とはなにかということをはとんどの人が知らないという前提で対処していくことが必要だと思えます。まず、「国有林」という言葉を国民、地域の方々に積極的にアピールし、知っていたことが必要です。

入庁以来、三大美林で勤務することを念願しておりましたが、最後を東北局で迎えられることに感謝しております。二年弱の短い期間ではありましたが、皆様のご支援により公私とも楽しく過ごせたことに感謝申し上げます、御礼ご挨拶とします。



着任挨拶



施業力の向上、 地域への貢献

青森事務所長

小林 忠秋

七月四日付けで青森事務所長を拝命しました小林です。東北局管内の勤務は初めてです。どうぞよろしくお願ひします。

着任して以来、岩手・宮城内陸地震の被災地や各署などを回りました。被災地の皆様にはお見舞いを申し上げるとともに一日日も早い復旧・復興に向けた取組が必要と感じたところです。また、復旧などに当たられている職員の皆様には適切な対応に努めておられ、地域から感謝されているなど力強く感じたところでもあります。今後、復旧業務などが続くことになりませんが、地域の安心・安全のため復旧が円滑に進むよう努めて参りたいと考えております。

この二年近く木材関係の仕事を通じて実感したことは、わが国の森林や国産材を巡る状況、潮目が大きく変わってきたことです。まず、利用可能な人工林が増えてきたことであり、合板用等として国産材の需要が急速に増えていることです。今回、各署にご挨拶に参りましたが、道中の人工林も着実に育っていました。宮城、岩手の合板工場や集成材工場への国産材の入荷も増えており、資源のあるところに産業が育つということもあります。いよいよ地域の人工林資源を活用することが地域経済にとっても重要となりました。次に外材輸入を巡る不透明感が増大しているということ。ロシアの輸出税、ユーロ高や原油高、中国などの木材需要増などにより木材輸入が以前ほど容易ではない

状況が増しています。

三つ目に住宅分野での需要構造が変わったことです。品質・性能の確保、表示への要求が益々高まっています。無垢材と集成材は一般の消費者にとっては同じというのが現状ではないでしょうか。

こうした中、地球温暖化防止に向けた森林吸収量目標を達成するため間伐を進めています。しかしながら、切り捨て間伐や林地残材が多く、「資源」の有効利用や森林の収益性の確保の観点から、利用を前提とした間伐技術の普及や間伐材生産の低コスト化、安定供給体制づくりなどが課題となっております。

国有林ではこれまでも間伐技術、施業技術の向上に努めてきましたが、間伐材は資源だと意識を変えて、森林整備と間伐材利用が両立する施業力の更なる向上が必要で、間伐のほか、ヒバの持続的供給、人工林の長伐期施業などに向けた施業力も大切ですし、培った施業力を民有林に波及させる取組も重要と考えております。

また、間伐材などの国有林材を安定的に供給することにより地域の木材産業の発展に貢献していくことが必要と考えております。このことは国有林のみではなく、民有林関係者とも一緒になって取り組んでいくことが重要です。木材供給のほか、国有林のフィールド

や職員のノウハウを活かした森林環境教育や森林レク・観光などの取組、地域の安心・安全のための治山事業の推進など地域に貢献する取組も積極的に展開していく必要があると考えております。

ここ数年山歩きを趣味にしており、東北の素晴らしい山々が楽しみです。公私にわたりいろいろとお世話になりますが、仕事も山歩きも楽しくしていきたいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願ひします。

東北森林管理局

1階ロビーのご案内(9月)

・ミニギャラリー

みちのく俳画、はがき絵展
秋田市 ヨークグループ

・PRコーナー

みどりの回廊と仲間たち

指導普及課

大鱈方式で 効率的な間伐の推進

大鱈町林業育成会 会長 大平 正善

◆おらほのグループ

スキーと温泉の里として知られる青森県大鱈町で活動する「大鱈町林業育成会」は、素材生産業を営む若手後継者十名（六社）で構成される林業研究グループで、会員はグリーンマイスターの資格を有する素材生産のプロ集団です。

当初は会員相互の親睦を図ることが主なねらいでしたが、山火事防止パレードやスキー場の草刈な



高性能林業機械を背景に会員の皆さん

どのボランティア活動にも参画するようになり、平成十八年十二月には、林野庁の森林づくり交付金を活用し、プロセッサ一台、グラップル付きバックホウ二台、フォワーダ一台、計四台の高性能林業機械を共同購入し、素材生産の重要な担い手として地域から注目されています。

◆団地化・機械化で低コスト間伐

民有林において間伐を推進するうえで最大のポイントは、森林所有者の自己負担をいかに少なく押さえるか、または負担をゼロとし、さらには収益を森林所有者に還元できるかが重要となっています。

会では二年ほど前から町や森林

組合の支援を得て、森林を団地化し高性能林業機械を活用する低コスト間伐を進める仕組みを模索してきました。



現地研修会でのデモンストレーション

①財産区を核とし、その周辺の個人有林を取り込んで約三十haの団地化を行う。

②団地内の財産区の役員や森林所有者を対象に事業説明会や間伐や枝打などの現地研修会を開催し、施業の働きかけを行う。

③二十m×二十mのプロットを設定し毎木調査を行い、出石や生産コストを含めた林分診断書を作成し、施業提案をすることにより森林所有者の理解や信用を得る。

以上の取り組みにより平成十八

年度は約十五ha、平成十九年度は約三十haの間伐を実施することができ、今年度は約四十haの実施を目標に取り組んでいます。

◆大鱈方式の定着化を目指して

当会を推進母体とする大鱈方式（森林の団地化＋高性能林業機械の活用＋町の高上げ）のベースはほぼ構築されましたが、軌道に乗せるにはしばらく時間を要すると思われま

いかにして森林所有者の信頼を得、リードしていくかが定着化に向けてのポイントと考えます。

森林資源が充実しつつある今、利用間伐を積極的に進め、緑豊かな郷土づくりの原動力となるよう取り組みたいと考えています。



事業説明会での間伐の働きかけ

歴史ある海岸防災林 「風の松原」を地域一帯で保全

米代西部森林管理署

「風の松原」は、秋田県北西部、能代市の日本海沿岸に広がる海岸防災林です。江戸時代から長い年月をかけて造成された歴史あるクロマツ林で、延長十四km、最大幅は約1km、面積は七百六十haと国内最大級の規模を誇ります。市街地に隣接していて、林内に



憩いの場として利用されている松原

はサイクリングコースや散策路が整備されていることから、健康づくりの場、憩いの場として朝早くから多くの市民の方に利用されています。

当署は、市街地に隣接した三百四十三haの国有林を管理していますが、ボランティアと連携した松原保全の取り組みについて紹介します。

「風の松原」では、平成十一年に松くい虫被害が確認され、平成十四年に被害が急増しました。平成十五年からは市民の手で松くい虫被害から歴史ある松原を守ろうと「風の松原を守る市民ボランティア大会」が行われています。

この大会は、県や市、松原周辺の自治会やボランティア団体などが協議会を結成して実施しており、署も協議会のメンバーとして積極的に活動に関わっています。今年で六回目になる大会には、約七百五十人の市民ボランティアが参加し、マツノマダラカミキリの卵が入っていたり産卵する可能性のある松の枝拾いを行い、松くい虫被害に対する意識を高めました。



ボランティア大会での高校生の活躍

次に、清掃活動について紹介します。松原は多くの方からマナーを守って利用していただいています。それでも時折、空き缶や弁当の空き容器などのポイ捨てが見受

けられます。

署では、林野庁が提唱する7月の「国民の森林クリーン月間」にあわせ、署OBのボランティアと合同で清掃活動やマナー向上の呼びかけを行っています。

松原では、市内外から訪れる方が気持ち良く利用できるようと、個人や自治会、職場単位でもこのような清掃活動がごく自然な形で行われています。

署では、先人からの遺産である松原をよりよい形で次の世代に引き継ぐため、これらの活動に対する協力・支援を引き続き行っていきたいと考えています。



清掃活動で集められたゴミ

【森のお話】
…コラム…

サルノコシカケのもうひとつの顔
ガンに効くというけれど…

森林総合研究所 東北支所 針葉樹病害チーム長
田端 雅進

●「サルノコシカケ」って
どんなもの？

「サルノコシカケ」というと皆さんはどのようなものを思い浮かべますでしょうか？

写真―1は「ベッコウタケ」というキノコです。このキノコは、サラやニセアカシアをはじめ種々の広葉樹の心材を腐らせ、街路樹によく見られます。「ベッコウタケ」が生えた木は、風で折れたり倒れやすくなるので、注意が必要です。傘は半円形、扇形、扁平、しばしば多数重なって発生します。傘の表面は、はじめクリーム色、後に赤褐色、黒褐色で、周辺部は類白色です。写真―2は「キンイロアナタケ」というキノコです。このキノコは、エゾマツやカラマツなどの生木やサクラなどの枯木の地際部に発生し、近年、ヒノキの根株腐朽菌として恐れられています。基物の表面に平面的なキノコをつくり（背着生…はいちやくせい）、傘の色は、クリーム色、黄色、淡褐色、やや金属光沢をもつように見えます。これらはいずれも「サルノコシカケ科」に属しているキノコです。

こうして見るとずいぶん違うものですね。実は「サルノコシカケ」とは一種類のキノコではなく、一般に半円形から扇形の傘を持ち、木質で硬いキノコの総称なのです。「サルノコシカケ」と呼ばれているキノコの仲間は、七十一属六八一種が記載されています。

●食用にも薬にもなる
「サルノコシカケ」

ところで「マイタケ」というキノコをご存知でしょうか？「マイタケ」は、ミズナラやシイなど広葉樹の大木の地際や切り株から発生する食用キノコで、



写真-1 ベッコウタケ



写真-2 キンイロアナタケ

多くの料理に合いますが、特に「きりたんぼ」に代表される郷土料理に欠くことができないものです。見つけた人は嬉しさのあまり舞い踊ったため、舞茸という名前がついたとされています。実はこの「マイタケ」も「サルノコシカケ」の仲間になるキノコです。また、同じ仲間になる「トンビマイタケ」は、ブナの根元や切り株に群生する食用キノコで、秋田県では珍重され、特にお盆の頃は高値で取り引きされています。

このようにこの仲間は、食用キノコとして知られている他に、古くから漢方薬としてキノコが珍重されるものが多くあります。「カワラタケ」は、抗ガン作用が認められ、「クレスチン」という薬品名で利用されています。近年では抗ガン剤としての可能性の他に、ダイオキシンの分解に利用できるのではないかと期待が高まっています。

●「サルノコシカケ」の
もうひとつの顔とは…

ところで「サルノコシカケ」は、食用や薬とは別の一面も持っています。それは樹木病原菌としての一面です。枯れ木に生える場合は頼もしい分解者で、他の微生物が利用しにくい難分解性の木質成分（セルロース、ヘミセルロース、リグニン）を分解し、栄養として利用できる能力を持つていますが、生きた木にも生えるので大変です。

生きた木に生えると、その木を枯らしたり、その木を腐らせたりして木材の価値を著しく低下させます。

●ヒバを「サルノコシカケ」から
守るには

東北で今、最も問題なのは「モミサルノコシカケ」（写真―3）です。これは東北の代表的な樹種であるヒバの幹を溝状に陥没・腐朽させてしまうもの（ヒバ溝腐病…ヒバみぞぐされびょう、写真―4、5）です。この病気でヒバが枯れてしまうことはありませんが、材が腐朽するため木材としての価値が著しく低くなります。

ヒバ溝腐病の感染や分布拡大については現在鋭意調査中です。皆さんがヒバ林で「モミサルノコシカケ」を見かけることがありましたら、是非ご一報下さい。



写真-4 ヒバ溝腐病



写真-3 モミサルノコシカケ

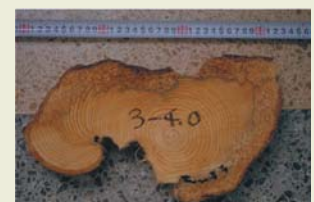


写真-5 ヒバ溝腐病により腐朽した円盤



最上支署

遊々の森「ふながた薬師の森」を協定締結

七月三十一日、当支署と舟形町教育委員会が当支署管内で四件目となる「遊々の森」を締結しました。活動の主体は、舟形町教育委員会と連携した地元舟形町に所在する「ブナの実21」であり、農山村地域の過疎地であっても農業の営みに支えられた地域文化と清らかな水や美しい緑、都会にはない豊かな自然のある町として世界に発信できる「いやしの里」を実証的に進めている団体であります。フィールドである国有林は、見事なブナの二次林であり、未来を担う児童・生徒たちの森林環境活動として最適の場であります。昨年度の森林・林業技術交流発表

会の森林ふれあい部門で共同発表（最優秀受賞）した、国有林（地元森林事務所）と地域に精通した教育委員会、それにブナの実21が連携して森林環境教育を推進するため「遊々の森」の設定を検討してきました。

協定締結者である舟形町教育長やブナの実21の会長は、「これまで国有林での活動が主体であったが、この協定締結により、今後は、国有林でも幅広く充実した活動ができます。」と話しています。

最後に、支署長から、「これまでに引き続き存分に国有林を利用して下さい。」と期待の言葉を送りました。



活動の充実を期待して

下北森林管理署

青森ヒバの箸 空を飛ぶ

当署管内村口産業（社長村口要太郎）制作した、青森ヒバで作った箸が、日航国際線ファーストクラス機内食用の持ち帰りとして、採用されることになりました。

箸は、端材などを利用したエコ箸で、外国の方も持ちやすいようにくびれを設け（デザインは東京の会社）、その加工機械は村口産業が開発したものです。今後、毎月三千二百膳を安定的に

供給される計画となっています。村口社長は、地元新聞社の取材に対して、「滑りにくいので、はしをふだん使わない外国人向きかも知れない。ヒバの香りを何度も楽しんでいただきたい。」と、コメントされています。



村口産業（写真上）と制作した青森ヒバの箸（写真右）

認識を深められた治山施設等の見学

八月五日（火）、国有林野事業の取組みをより深く理解していただくことを目的に、本年度から依頼した下北森林管理署モニター四名の方々に、治山関係を中心に国有林を案内・説明しました。

当日はむつ市大畑町の薬研地区において、スリットダムや魚道も備えた谷止工、スリットダムで捕捉した流水をチップ化して山腹緑化工事に活用した箇所などの視察と、保安林の役割、今回の宮城・岩手内陸地震での国有林の取組み状況等について治山課長がわかりやすい説明をし

した。

モニターの方々からは、「森林管理署は木を植えて育てて伐るのが仕事だと思っていたが、山を保護する仕事があること等について初めて知った」

「普段なかなか見ることができないのでとても勉強になった」など、驚きと喜びの声がありました。今年度は更に、森林の整備はもとより、地域と連携した取組み等について現地案内も含め理解を深めてもらうことを考えています。



治山ダムでの説明の様子

山形森林管理署

地すべり対策工事の説明会を開催

山形森林管理署では現在、西川町月山地区の国有林において、地すべり調査および地すべり対策工事を行っています。月山は山形県のほぼ中央に位置し、冬期には相当量の降雪があります。そのような気象環境も一因となり、月山地区は地下水が豊富で、そのため、特に地下水位の高くなる融雪期は、地すべりが発生しやすい状況にあります。これまでの調査の結果から、地すべりの動きが特に顕著であった志津地区において、昨年度よりその対策工事に着手しま

した。志津地区は、月山への入口の一つとなっており、施工箇所付近には志津温泉街があります。去る八月二十六日、この地区の住民を対象に、工事の進捗状況の報告を含めた地元説明会を行いました。

当日は住民九名と町役場から二名の参加があり、始めに当署より事業概要等の説明を行い、その後、昨年度施工した集水井を見学しました。投光機で内部を照らし、上から覗き込んだその深さは約三十m。深さも然ることながら、滔滔と流れ込む地下水の多さに見学者の驚く声が聞こえてきました。現地でも集水井の仕組みや、集まった水の処理方法などについて熱心な質問が寄せられ、中には温泉旅館の経営者らしく、この水を何とか利用できないものかと思案する人もいました。

岩手・宮城内陸地震をはじめ、近年、自然災害が増加していることから、志津地区の住民もこの地区の地すべりに対する関心が非常に高く、今回の説明会を通して、日ごろ感じていた疑問や不安を解消し、工事に對しての理解を得られたと思えます。



参加者の関心が高かった集水井での説明

上小阿仁支署

鷹巣農林高校生の森林・林業現場体験を実施

八月六日～八日まで、秋田県北秋田地方振興局と連携して鷹巣農林高等学校の三年生六名を対象に「平成二十年度森林・林業現場委託実習」を昨年度に引き続き実施しました。

初日は北秋田地方振興局が担当で、当支署は二日目を担当し、現場実習を中心に実施しました。

午前は、支署会議室において支署の業務内容を説明後、上大内沢自然観察教育林内に移動し、森の巨人百選に選定されている「コブ杉」を見学しました。静寂した林内に林立する太くて大きい天然秋田杉を相手に、胸高直径や樹高を測樹用器具を用いて収穫調査の体験をしました。

次に、列状間伐実施済み箇所現場所を移し、列状間伐のメリットや、森林が固定している二酸化炭素を固定すること、「伐採された間伐材を有効利用するため、素材として生産し、合板材、集成材及び一般製材用原木として安定的に供給している



コブ杉で測樹の体験を行う鷹巣農林高校生

こと、「若齢の間伐材は販売単価が安いので、伐採、集材、造材及び巻き立て等のコスト削減に努めていること」等について支署職員から説明を受け勉強しました。

最終日となる三日目は、北秋田地方振興局において、県や国有林で働く鷹巣農林高校の先輩と意見交換会を行いました。

意見交換会では、「公務員の仕事は地味な仕事の積み重ねだと感じた」、「公務員試験を受けるためにどのような勉強をしたのか」等の質問や意見に、先輩が丁寧に回答していました。当支署では将来の林業従事者の育成に寄与するため、インターシップ活動に今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。

米代西部森林管理署

グリーン・サポート・スタッフが入山マナーを呼びかけ

八月十二日（火）、当署のグリーン・サポート・スタッフ（森林保護員）四名が、八峰町の二ツ森登山道入口で、入山マナーを呼びかけるチラシ配布を行いました。

グリーン・サポート・スタッフは、百名山や世界遺産地域など、入山者の多い地域での巡視やマナー向上を呼びかける活動を行っています。当署では、四人のスタッフが二人一組となつて、藤里町と八峰町の白神山周辺地域で入山者の多くなる六月中旬から十月末まで巡視活動を行っていま

す。普段はそれぞれ受け持ち区域で活動を行っています。夏休みに入り、県外からの登山者が多くなるこの時期に、二ツ森登山道入口で入山マナーを呼びかけるチラシ配布を合同で行いました。



スタッフによるマナー向上への呼びかけとチラシ配布

二ツ森は、秋田県側の登山口から一時間弱で山頂に到達できることや、ブナ林を身近に感じながら白神山地を眺望できることから、県内外から多くの方が訪れます。

当日は三十度を越える下界の暑さとは違い、さわやかな青空のもとで、四十名程の登山者に対しマナー向上の呼びかけを行いました。登山者は、夏休みを利用して訪れた関東方面からの家族連れが多く、「白神山地を身近に感じる事ができる二ツ森に一度来てみたかった。」や「白神山地を満喫して来ました。」などと笑顔で感想を話していました。

当日のスタッフの活動は地元紙でも取り上げられ、白神山地周辺での署の取り組みが広く紹介できたと感じています。

また、入山マナーは良くなってきているものの、違法な釣りで入山する人も後を絶たないことから、引き続きマナー向上の呼びかけを行っていきたいと考えております。

イ ベ ン ト 情 報

イベント名 「鳥海山麓・獅子ヶ鼻湿原散策と治山事業見学」

イベント内容 獅子ヶ鼻湿原を巡り、奇形ブナ・あがりこ大王や鳥海マリモを觀賞します。また、鳥海山5合目の鉾立(ほこだて)展望台から奈曾川治山工事を見学します。

期 日 平成20年10月4日(土)

実施場所 秋田県にかほ市

募集人員 40名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)

参加費 大人3,500円 小・中学生2,000円(傷害保険料等)

出発地 東北森林管理局前 午前8時15分発

申込み期間 平成20年9月22日(月)～26日(金)

その他 昼食(敷物)、飲料水、雨具は持参して下さい。



イベント名 「雄大なる名瀑觀賞と紅葉の広葉樹林を巡る」

イベント内容 くろくまの滝と紅葉の赤石渓谷・奥赤石ブナ林木遺伝資保存林を散策し、白神ラインを経由して津軽峠から白神山地と岩木山の遠望、ブナ巨木マザーツリーを觀賞します。

期 日 平成20年10月18日(土)

実施場所 青森県鱒ヶ沢町、西目屋村

募集人員 40名(先着順)

参加費 大人3,000円 小・中学生1,500円(傷害保険料等)

出発地 ①青森市沖館・青森グリーン会館跡地 午前7時10分発
②鱒ヶ沢町・海の駅「わんど」 午前8時55分発
*8時40分より海の駅「わんど」で開会式を予定

申込み期間 平成20年9月29日(月)～10月3日(金)

その他 昼食(敷物)、飲料水、雨具は持参して下さい。



申込み方法 ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入の上、下記までお申し込み下さい。

【上記イベントお申込み先お問い合わせ先は】

指導普及課 緑の普及係 〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号
電話：018-836-2218 FAX：018-836-2012

イベント名 「紅葉の白神山地での藤里駒ヶ岳登山」

期 日 平成20年10月10日(金)

実施場所 田苗代湿原・藤里駒ヶ岳

募集人員 20名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)

参加費 大人3,500円 子供2,000円(保険料、記念写真代等)

応募締切 9月24日(水) 必着

服装等 登山できる服装と靴・雨具・敷物・昼食・飲み物など。



イベント名 「白神山地での紅葉狩りと温泉浴」

期 日 平成20年10月25日(土)

実施場所 岳岱・釣瓶落峠・太良峡・ゆとりあ藤里(温泉)

募集人員 40名(応募多数の場合抽選、結果は後日通知)

参加費 大人3,800円 子供2,000円(保険料、記念写真代等)

応募締切 10月8日(水) 必着

服装等 登山できる服装と靴・雨具・敷物・昼食・飲み物など。



申込み方法

①往復ハガキに「希望するイベント名、開催月日」を明記の上、住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、当センターに申込み下さい。(家族やグループの場合は、ハガキ1枚に連名でお願いします。)なお、電話等による申込みは受け付けません。

②申込先は

藤里森林センター 〒018-3201 秋田県山本郡藤里町藤琴字大関添24-3

詳しく知りたい方は、当センターにお問い合わせ下さい。

電話：0185-79-1003



“地域の安全・安心の確保に向けて”

置賜森林管理署 松川治山事業所主任

本田 康敬

松川治山事業所は、山形県の南部、米沢牛で有名な米沢市にあり、蟹ヶ沢地区での地すべり対策事業が主な仕事です。

蟹ヶ沢地区は、米沢市の南東約20km、福島県との県境に位置し、面積は約100haもあります。当地区では、昭和45年から地すべり調査や地すべり対策工が実施されてきましたが、平成10年に活動が激化し、現在も調査、対策工が実施されています。

蟹ヶ沢地区以外にも、溪間工の監督業務を担当しています。署と事業所の中間に位置することから私が担当することになったのですが、飯豊連峰の登山口に近く大変自然豊かなところです。先日は現場に向かう途中でカモシカの親子に遭遇しました。またその帰りに



蟹ヶ沢の荒廃状況

は子熊にも遭遇しました。

監督業務は慣れないことばかりで、一つ一つ課長や専門官に相談しながら進めています。初めての監督業務は溪間工の丁張り検査だったのですが、雨で増水して危険なため2日遅れで行いました。当日も朝方の雨で増水して洗い越しをやっと渡れるような状況でした。怖かった分、この仕事の重要性を強く感じました。

監督業務以外にも崩壊地の目撃情報を受け、



蟹ヶ沢の地すべり工事施工地

現地の確認に行くということがありました。急峻な飯豊の沢を登って行くのは危険なため、見通しのききそうな尾根まで登って遠望することになり、飯豊連峰の難所の一つ、剣ヶ峰まで登りました。幸い、崩壊地は認められず、土砂を巻き込んだ全層雪崩と思われることがわかったのですが、大学時代、山岳部に所属していた私には、思い出の飯豊に業務で登ることができて懐かしく感じました。

私が現場で見て感じる怖さを、下流に住む人々に感じさせないために、常にそのときのベストを尽くして業務に携わっていかねばならないと思います。豊かな自然の中で、安心して暮らせる社会を実現出来るように頑張っていきたいと思います。



飯豊連峰剣ヶ峰からの眺め

我が署の 隠れた名所

秋田森林管理署

ね ぼとけ さま 「寝 仏 様」

(見所の概要)

林道から複層林の中を200mほど進むと、一部うっそうとした森林がそのまま残っています。その中心に縦6m×横2m、地上高1mの巨石があります。「寝仏様」と呼ばれています。



寝仏様

「寝仏様」は知恵を授ける石仏と言われ崇拝されています。また病気のある人は自分の病むとこ



亀石

ろと同じ部分を寝仏様の体をなでさすり、そしてその手で自分の体を撫でると病が治ると信じられています。なお、この「寝仏様」は釈迦涅槃の姿だともいわれ信仰されています。

また、すぐ北側には大きさ2.3m程のどこから見ても海亀そっくりの岩があり、亀石と呼ばれています。この一帯には、ほかにも「田沢のお諸仏さま」(田沢鳩留尊仏(たざわくるそんぶつ))と呼ばれる巨石・奇岩が数多く見られます。

観光ルート(田沢湖から八幡平へ)の途中にあります。ぜひ、お立ち寄り下さい。



交通アクセス

JR田沢湖駅から18km、車で30分、徒歩5分

国道341号から尻高林道200m、徒歩5分

お問い合わせ先

〒019-2601 秋田県秋田市川辺和田字和田156-3
電話番号: 050-3160-5830 FAX: 018-882-2614